



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方にお送りしています

第 126 号(2016 年 9 月 5 日発行)

発行：岡山大学法学部 学部長室

台風の影響で不安定な天候が続きます。夏はどのように過ごされましたでしょうか。

○卒業生からのメッセージ (第 45 回)

みなさんこんにちは。地方公務員歴 32 年の岡大法文学部法学科の元女子学生です。

私は、もともとは公務員志望ではありませんでした。友人も、そのほとんどが私のことを「最も公務員に向かないタイプ」と思っていたことでしょうか。そんな私が、何故公務員に？理由は単純です。女性に対して門戸が平等に開かれていたからです。

私が就職した当時は、女性は結婚と同時に退職するのが当たり前で、就活では、「女性は大卒の採用はありません。」「わが社は、女性の場合は自宅通勤が条件です。」「女性の採用には(縁故のある)紹介者が必要です」と、スタートラインにさえ立たせてもらえない状況でした。なんとか内定は得たものの、まるで自分が使い捨ての駒のように感じられて、働く意欲は失せていきました。そんな中で、受験のチャンスが平等に与えられている公務員に気持ちが向いていったという次第です。

最初に岡山市役所に就職し、9年後、受験し直して郷里の島根県庁に移りました。これまで総務、建設、農林、医療、文化などいろいろな分野で仕事をしてきましたが、ときには土日祝日もなく朝から朝早くまで？仕事に追われて、肉体的にも精神的にも苦しい経験もしました。けれども、振り返ってみると、そうした経験によって成長させられた自分があり、仕事上のストレスはそれなりに仕事の質を高めてくれる一助になったようにも思います。

公務員に向かなかったはずの私が、結果として30年以上勤めているわけですが、なぜやめなかったのか？それは、行政の仕事がおもしろく、やりがいを感じたからです。

私たちの仕事は、いろいろな「ソウゾウカ」を必要とします。例えば、どういう制度や事業が必要なのかを想像する力、それを実現させるために組織や仕組みを創造する力、出来上がった制度や事業が実際、現場ではどのように機能するか、問題はないか、想像する力です。ビジネスの世界も同様かもしれませんが、国民、県民、市民のためという目的意識が明確にある点が民間とは異なります。そこに、公務員としての誇りの根源があります。

誤解を恐れずに言えば、行政はおもしろい仕事です。公務員職場は意外にも、いろいろなことに挑戦できる魅力的な世界なのです。

栗原昌子 (1982 年卒業・島根県立古代出雲歴史博物館 館長)

○法学部からのお知らせ

☆オープンキャンパスが開催されました。

8月6日(土)に開催されました本学部の公開説明会(オープンキャンパス)には、県内外から約1000名の高校生・ご父兄の方々にお集まりいただき、大盛況となりました。ご参加いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。

<http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/examinee/opencampus/2016.html>

☆岡山大学法学部第9回ホームカミングデイ

今年もホームカミングデイを開催します。卒業生で弁護士、岡山大学法文経学部同窓会会長の陶浪保夫氏に講演いただきます。

みなさまのお越しをお待ちしています。

日時：2016年10月22日(土)

1. 講演会

時間：14：30-16：00

場所： 岡山大学 文法経学部講義棟 10 番教室
講師： 陶浪保夫氏（弁護士・岡山大学法文経学部同窓会会長）
演題： 「学生歌（昭和 28 年度）の誕生に関わって」

2. 懇親会

時間： 16 : 30-18 : 30
場所： 岡山大学ピーチユニオン 3 階
会費： 2000 円（在学生は無料）

-
- ・本メルマガは、毎月 1 回程度配信しています。
 - ・法学部の詳細情報に関しては、HP も併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/index.html>
 - ・本メルマガには返信なさないようにお願いします。
 - ・本メルマガの登録・解除は、以下の URL にてお願いします。
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/law/local/mail/index.html>
 - ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。